
双空の誓い

双空

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

双空の誓い

【Zコード】

N6478A

【作者名】

双空

【あらすじ】

何も考えず、ただ1日1日を過ぐすだけの世界その世界に起きた出来事の物語

第1章

彼は覚えているだらうか

私と語つたあの時を

彼は今も覚えているだらうか

私が尋ねた質問を

そして・・・彼は・・・

守つてくれるのだらうか

私と交わした約束を・・・。

少年は走っていた。

静かな森の中を、光のさえないくらい闇の中を走っていた。

息をきらしながらも、とあることなく、体に負う重荷にもかまわず
に。

急な坂も、細く険しい細道までもとまりず。

徐々に体を、体力を蝕む怪我という重荷を背負いながら走りつゝ走っている。

少しでも離れるために、少しでも生きていこうといつ実感を得るために・・・。

だから彼は止まろうとしない。止まれないのだ。

少年に迫り来るものがある限り、少年は止まらず走り続けるだろ。

自分のために、彼は走った、走りに走った。

しかし気づいてみれば、彼の右腕は肩から赤い血を流しながら、無くなっていた。

彼の息はさらりに荒くなる。

それでも走った。

徐々に失う”体”を守るために・・・。

次第に彼の腕は左手までも同じようになくなっているのだった。

腕だけではない・・・。

耳も足もなくなっている。

彼の意識だけが、体を置いて走っていく。

森の向こうへ、この場所から、早々と・・・。

そして・・・、彼の意識はなくなっているのだった・・・。

その、彼がいた場所のそばには、赤い”丸い点”のついた大木が横たわっている。

その横に、少年のものと思われる、血のついた衣類があるだけだった・・・。

第1章

彼は覚えているだらうか

私と語つたあの時を

彼は今も覚えているだらうか

私が尋ねた質問を

そして・・・彼は・・・

守ってくれるのだろうか

私と交わした約束を・・・。

少年は走っていた。

静かな森の中を、光のせれないくらい闇の中を走っていた。

息をきらしながらも、とまることなく、体に負う重荷にもかまわず
に。

急な坂も、細く険しい細道までもとまらずに。

徐々に体を、体力を蝕む怪我という重荷を背負いながら走っている。

少しでも離れるために、少しでも生きてこようと実感を得るために・・・。

だから彼は止まらうとしない。止まれないのだ。

少年に迫り来るものがある限り、少年は止まらず走り続けるだろ。

自分のために、彼は走った、走りに走った。

しかし氣づいてみれば、彼の右腕は肩から赤い血を流しながら、無くなっていた。

彼の息はさらりに荒くなる。

それでも走った。

徐々に失う”体”を守るために・・・。

次第に彼の腕は左手までも同じよくなくなっているのだった。

腕だけではない・・・。

耳も足もなくなっている。

彼の意識だけが、体を置いて走っていく。

森の向こうへ、この場所から、早々と・・・。

そして・・・、彼の意識はなくなっているのだった・・・。

その、彼がいた場所のそばには、赤い”丸い点”のついた大木が横たわっている。

その横に、少年のものと思われる、血のついた衣類があるだけだった・・・。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6478a/>

双空の誓い

2010年12月14日03時00分発行